

# 万葉図書・情報室だより 71号

のですね。  
食べ物だけではなく、「濁酒」もいた  
だいたので、酒の歌も紹介します。

価無き 宝と言ふとも 一坏の

## 天平の食いいただきます

先日、奈良時代の貴

族の食事を実際にいた

だく機会に恵まれまし

た。そこで今回は『万

葉集』の食にまつわる

歌をいくつか紹介しよ

うと思います。



醤酢に 蒜搗き合てて 鯛願ふ

我にな見えそ 水葱の 羹

長意吉麻呂(巻16・3829)

—醤と酢に蒜をませ合わせて鯛を食

べたいと思うものを。私に見せるな、

水葱の羹を。—

羹とは現代の吸

い物のことであり、

醤酢は醤と酢を合

わせたものです。

醤とは豆類を発酵



羹



させた、味噌や醤油  
の原型と言われる調  
味料です。高級な鯛

を食べたいのに現実

鰯の栄養価が高いことが知られていた



鰯を醤で煮たもの



鰯を醤で煮たもの

の目の前にあるのは水葱(当時、広く

庶民に食べられていたミズアオイの葉)  
が浮いた吸い物か…という意味でしょ  
うか。

—値段のつけられぬ程の宝と言つて  
も、たつた一杯の濁酒にどうしてま  
さつていよう。—

酒にまつわる歌を

多く詠んだ大伴旅人

の歌です。旅人は他

にも、〈酒壺になつて

酒に染みていい〉

とか〈利口ぶつて酒を飲まない人をよ

く見ると猿に似ているなあ〉といった

面白い歌を詠んでいます。



濁酒



お店の人とのやり取り  
が聞こえます  
ですね



(司書 藤原文代)

ことなどが展示品からわかります。万  
葉の時代にタイムスリップできる空間  
にぜひお越しください。

※万葉歌は「万葉百科」による。

〈主な参考文献〉

『和の食』全史(永山久夫／河出書

房新社)

『古代の食生活 食べる・働く・暮ら  
す』(吉野秋二／吉川弘文館)

『奈良朝食生活の研究』(関根真隆／吉

川弘文館)

『奈良朝食生活の研究』(関根真隆／吉

川弘文館)

『奈良朝食生活の研究』(関根真隆／吉

川弘文館)

図書室のご利用は無料です。

閲覧でのご利用になります。

開館時間：午前10時～午後5時半

休館日：月曜日(祝日の場合は翌平  
日)・年末年始・展示替日

「ピーサービス」白黒 1枚10円  
カラーワン枚50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室

奈良県高市郡明日香村飛鳥10  
0744-54-1850(代)